

新年のご挨拶



二松学舎大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
平成31年1月20日発行
(第103号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞広堂吉先生書



父母会長
宮脇 正裕



新年明けましておめでとうございます。
父母会会員の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年は皆様のご理解とご協力を持ちまして、父母会活動を滞りなく執り行うことが出来ました。

地区別父母懇談会は、六月の愛知・山口を皮切りに八月の高知・福岡までの合計九回の開催で約三百名の参加を頂き、学校の現況や学生の学習状況・学生生活の認識共有や就職活動助成や本懇談会の実施要領に対する意見等を頂きました。今後の活動へ反映していきたいと思っております。

また、十一月には創縁祭において父母会無料休憩所を開催し、二日間で三百六十名を上回る方々にご利用

頂きご来場の皆様と良きひと時を過ごさせて頂きました。

三月には例年通り、グランドパレスホテルで卒業パーティーを開催します。学校やゼミの先生・仲間との交流を深め「ふるさと」を認識して社会に巣立つ準備をして頂ければ幸いです。

相次ぐ大災害と情報通信機器の発達に特徴づけられる平成も残すところあと僅かとなりました。四月には統一地方選挙、五月には新天皇の即位があり新しい元号のスタート、十月には消費税が一〇%に増税される予定です。また二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの準備も佳境を迎え、世の中も慌ただしくなっていくことと思われます。まさしく激動の時代・社会の中で二松学舎大学及び学生・卒業生が順調な時はもとより、順調でない時でも本校の建学の精神を堅持し社会で活躍されることを父母の一人として強く願っております。

二松学舎大学、学生そして会員皆様には新年の好スタートを切られ、ご健勝で充実した一年を過ごされませう祈念申し上げます。

結びとなりますが、我々父母会役員一同は学校と会員皆様とのパイプ役となり「学生の為に」を基本として活動してまいりますので引き続きのご指導・ご協力をお願い申し上げます。

父母会の皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

本年度から新長期ビジョン、N'2030 Planの実行段階に入ります。

建学の精神に基づいて育成する本プランの人材像を、時代の先行き、技術の大変革や多様性も含めて策定、これを実現するための「二〇三〇年教育体制」の構築を行っていくかねばなりません。時代が進むに連れ、単純・反復作業の多くはAI等のテクノロジによって代替され、人間の仕事ではなくなっていく、「マニュアルを覚え、正確かつ迅速な処理力」よりも、「問題発見、設定、解決する力、創造する力」など創造的知性、社会的知性の涵養を行っていくことが求められます。従って、社会の大きな変化を織り込むなど方りキキュラム再編の必要があり、「学部学科改編会議」でその骨子をまとめました。概要は、①初年次教育は期間、内容とも充実・強化、学部を超えた全学共通科目、学位プログラムを導入、教養、歴史、哲学、英語、数理学等科目を配置し、適切なナンバリングを施すこと。②外国語、キャリア、数理データ、ICT各教育を充実させる他、習熟度別クラス編成を実施、高大社接続を意識したカリキュラム編成とする。③専門課程のゼミを必須化、並行して履修する体系とする。④編成は「スクラップ&ビルド」の原則で臨むの四点であり、この骨子を基に、現在学長の下にWGが組成され、議論を開始しています。

N'2030 Planの目標の二番目には、大学のブランドアップを挙げています。目標を設定し、それに近づけていくということです。プラン全体の進捗状況が一覧できるダッシュボードに、法人経営、入学、教育、就職、卒業に分けて、各欄にそのフェーズを代表する数値を置く、経営基盤は、経常収支差額比率など、入学フェーズは、志願者倍率や偏差値、在学中の教育フェーズは、志願者満足度や授業評価やディプロマポリシー達成度など、卒業フェーズでは、就職率と大企業就職者数、卒業生の現況など、目標校と比較しな

から、差が生じている背景、課題を抽出し、アクションプランに織り込み、課題解決しながらステップアップを図っていくものです。

次の話題は、昨年十月、文部科学省中央教育審議会に設置された「高等教育の将来構想部会」が公表した議論の取り纏めについてです。二〇三〇年～四〇年にかけての環境変化を予想し、将来の高等教育制度の在り方を提言しています。環境変化の第一は、十八歳人口の激減です。現在の百二十万人から二〇四〇年には八十九万人と大きく減少、並行してAI、IOT等第四次産業革命と言われる技術革新により我々の生活が大きく変わっていく、また長寿世界一の我が国は、人生百年時代といわれ、二〇〇七年生まれの子供



年頭所感

百四十二年目に入った

二松学舎大学「N'2030Plan」

理事長 水戸英則

の半数が百七歳まで生きるとい調査結果が出るなど、ジュニアも、シニアも長寿になり、余生の過ごし方が問題になっていきます。

こうした時代のキーワードは、「多様性」、「柔軟性」、「機動性」の三つです。そして人材育成の基本には、「予測困難な中で変化に迅速かつ柔軟に対応できる人材」が求められます。例えば、文系学生も数理データマインドを身に付ける必要性や、教員構成も、実務家、若手、女性、外国籍など多様な背景の教員を採用する必要性などが提言されています。学生についても「多様な学生」、つまり、十八歳の入学生に加えて、社会人、留学生も入学する。学位を国際標準にする、我が国大学の海外進出基準も緩和する方向で、議

論されています。また「ガバナンスの多様性」に関しても、国公私の枠を超えた統治体制の必要性が提言されています。

改革の具体的な内容は、①「大学教育の質の更なる引き上げ」で、「学修者本位の教育と学修の質保証」、「学生が身につける能力、付加価値の見える化」を図り、教育成果を可視化、「情報公開」していくということ。また教員や授業科目のシェアリングを行う学部間共通プログラム、本学でいえば、文学部と国際政治経済学部共通の総合科目を設置、共通の教員が教える体制にすることができるといことです。②大学機能の分化、世界を牽引する人材、高度な教養と専門性を備えた人材、高い実務能力を備えた人材の各育

成、この三つの範疇に沿って機能分化させていくことです。私立大学は教育に重点をおいていくこととなります。③経営力の強化、大学経営に実業界出身の外部理事を複数名以上入れる形で、私学法が改正される方向です。

④大学の連携・統合です。国立大学は、一大学多法人制度を導入、地方における国公私の枠を超えた「大学等連携推進法人」の創設も視野に入っています。⑤リカレント教育の促進です。長寿社会を迎え、皆さんのライフステージがモノからマルチへ変わる、これに高等教育が対応できるように体制にすべきとの提言です。

以上の中で「重要な点、それは「学習者本位の教育体制」の元「教育の質の保証」と

「恒常的な情報公開」。これが最も肝要です。指導方法の改善、シラバス、GPAなどの実質的運用を通じて学修成果の可視化を図ること、また学修時間、退学率などの指標を情報公開することの重要性が提言されています。認証評価も同じ方向です。「学生を受け入れ四年間で付加価値をつけ卒業させて、学修成果を公表できる大学でない」と認めない、学部・学科の新設も含め設置認可条件を、今後厳格化していくことです。

次は来年四月から開始予定の高等教育の無償化問題です。非課税世帯を対象に大学の入学金二十五万円と、年間授業料七十万円の四年間免除が決まり、これに準ずる世帯には、それぞれ三分の二、三分の一免除と、対象層が広がっています。また無償化対象学生は、日本学生支援機構(JASSO)から生活のための給付金支給も決まっており、受給者には大きなメリットがあります。無償化を受けられる大学の要件は①実務経験のある教員が卒業開講科目の二割以上を担当していること。②産業界出身の外部理事を複数名以上任命すること。③授業計画や評価の客観的指標を設定し、適正な成績管理を実施、公表していること。④法令で定められた財務情報をホームページ等で公表していることなどです。無償化適格・非適格大学の公表は、来年八月にとされています。本要件の中で、GPAや、卒業・退学要件、実質運用、教育成果の公表等について本学は遅れており、対応を急ぐ必要があります。JASSO調査の非課税世帯とこれに準ずる世帯の割合は、大学在学全世帯の二割近くを占めており、仮に本学が無償化資格を受けられないと学生募集力に大きな影響が出るため、初年度適格を獲得する必要があります。

以上新年の課題と話題を挙げました。本年も父母会や関連するステークホルダーの方々に対しまして、引き続きご支援・ご協力をお願いして、新年のご挨拶といたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎え、保護者の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

今年も本学は教育改革を進めて参ります。大学は教育課程全体を通して学生の知識や技能を形成し、成長させていく使命を課されております。アクティブラーニングや教員の教育力向上等を進め、学生が幅広い教養や深い専門的知識、語学やITスキルに加え読解力やコミュニケーション力など様々な能力や豊かな人間性を身に付けて社会へ羽ばたけるよう力を尽くして参ります。

今の時期、大学では四年生の就職活動がほぼ一段落し、三年生の就職活動が始まる時期でもありません。平成二十九年卒業生の進路状況については以前にもお知らせいたしました。一般企業への就職を希望した学生の就職率は九四七％となり、学部による就職率の差はほとんどありませんでした。次に、いずれも両学部併せての数字ですが、教員となった者は四十二人、公務員は二十一人で学生が大変健闘した結果だと思っております。今年度の進路状況は、現時点で昨年並みの数字で推移しているようです。昨年十月に経団連の中西会長が就職活動のルール

廃止に言及したことは、社会に大きな動揺をもって迎えられました。大学としても就職活動の早期化や長期化により、学生の学修に大きな影響が出ないよう工夫を迫られています。

さて今回は、本学の『就職支援』についてご紹介したいと思います。小規模な大学であるからこそ可能な、きめ細かいサポートが本学の特徴です。

本学では社会に通用する人間力



年頭所感

— 社会で活躍する —

学長 菅原 淳子

センターが多彩なサポートプログラムを展開し、学生が希望する進路実現に向けて力強く支援しています。キャリアセンターは、企業への就職に限らず進路全般に関する相談を受け付けており、目指す進路への手段や方法、進路選択の悩みや不安に対してもアドヴァイスを行っています。

キャリアセンターが提供するプログラムには、三次次対象として「就活マナー講座」「就職力アップ

を育てることを目的として、文学部では「キャリア教育①④」、国際政治経済学部では「キャリアデザイン①④」という正課授業を設けています。両学部ともに一年次では自己理解を深め、社会で自立する方法を考えます。二年次では社会で求められる人材像を把握し、自己開発へ導きます。三年次はグループワークや面接練習で実践的なスキルを磨きます。こうした正課授業と連携してキャリアセ

ス介助士検定等と多岐にわたっています。なかでも公務員試験合格講座は、公務員試験専門「喜治塾」の協力を得ており、両学部共に毎年履修者が多く、近年は特に東京二十三区での合格実績を上げています。

また本学は戦前の専門学校以来、長いこと国語の教員養成に定評がありますが、現在は教員を目指す学生に対しては、就職支援センターがしっかりとサポートを行っています。就職課程科目の履修や教育実習派遣をはじめとする「教育職員免許状」取得に関する支援から、教員採用選考に向けた指導、そして教員になった後のネットワーキング作りまで就職支援センターが責任をもって支援をしています。「教員採用試験合格講座」は、正課外ですが試験対策に加えて教員としての知識と教養を身に付ける講座で、学生の人気も高いものです。このほか就職支援センターには中学・高等学校での実務経験のある教員が常駐しており、論文文添削や模擬面接も指導しています。

このように、本学では全学を挙げて学生の進路についてサポートをしています。大学で学んだ知識や身に付けた能力を生かして、学生たちが今後社会で活躍し、充実した人生を歩んでくれることを願っています。

日本語検定 団体表彰【日本商工会議所会頭賞】、個人表彰【読売新聞社賞優秀賞】を受賞

平成30年 6月 9日(土)、特定非営利法人日本語検定委員会主催「平成30年度第1回日本語検定」が学内で行われました。

当日は、3級を73名が受検し、団体として優秀な成績を修め、【日本商工会議所会頭賞】を受賞しました。

今回は、団体受賞と併せ、個人表彰において、野口亜梨沙さん(文学部国文学科1年)が【読売新聞社賞優秀賞】を受賞しました。

日本語検定は、「漢字」「表記」「言葉の意味」「語彙」「文法」「敬語」の6つの領域から幅広く出題される、日本語の総合的な能力を測る検定です。



本学では、学習の基礎である「国語力」を高める指導に力を入れています。1年次の基礎ゼミナールやさまざまな授業を通しておこなわれた結果が、今回の受賞につながりました。

日本語検定試験(学内団体受験)は、二松学舎大学父母会「教育研究振興助成」により実施しました。

今回は、「孤独」についてお話ししたいと思います。孤独は、一人ぼっちの状態、誰ともつながっていないような感覚です。近年、スマートフォンの普及により、いつでも誰かとつながれるようになりました。私達は孤独をあまり感じずに済むようになったのでしょうか。学生さんは特に、SNSで頻繁にコミュニケーションをとることが当たり前になっています。孤独を回避しやすくなっていると言えませんが、学生さんは孤独を感じていないわけではありませぬ。SNSでつながっていても孤独を感じていることがあります。

大人の私達にとっても、孤独は辛く避けたいものです。しかし、孤独は悪いものではありません。孤独を知ることによって、孤独に耐える力や一人でいる力を養うことができます。大学生の時期は、自分の内面と向き合い、自分らしさを確立することが課題になります。孤独は、自分の考えを熟考させる時間になるのです。そして、自分を

今回、他者との信頼関係を深めることで、一人でいることができます。しかし、孤独感が強すぎると、対人場面で不安を抱きやすく、対人関係を避ける傾向があります。誰かに相談したり、助けを求めたりする機会も減ってしまい、孤独の悪循環から抜け出せなくなってしまうのです。そんな時には、ご家族や友人など、周りのサポートを受けることが必要です。安心して話せる居場所をどこかに作ることも大事です。学生相談室もその一つであって欲しいと考えています。

相談室では、面接室の他にフリースペースを設けています。フリースペースは、それぞれが自由に一人の時間を過ごせる場になっています。そして時に、イベントを催し、皆で食事をしたり会話を楽しんだりする場にもなります。相談室は、孤独に向き合う場所であり、孤独に寄り添う場所でもあります。お子さんがそんな場所を必要としているときには、ぜひ学生相談室をご紹介ください。

学 生 相 談 室
だ よ り 103
カウンセラー **油谷理歌**

2018 創縁祭



11月3日(土)・4日(日)に、
二松学舎大学学園祭「創縁祭」
が開催されました。

父母会役員会では、無料休憩所(喫茶室)という形で毎年参加しています。伝統芸能、演劇、演武、発表、模擬店など学生たちのチームワークとアイデアの賜物をご覧ください。



創縁祭2018を終えて

学園祭実行委員会委員長

国文学科三年

富田樹里

十一月三日(土)、四日(日)の二日間にわたり創縁祭二〇一八を開催いたしました。本年も多くの皆様にご来場いただき、笑顔と活気の溢れる学園祭となりました。ご来場いただいた皆様より「二松学舎大学らしさがあり、学生の自主性を感じられて良かった」とのお言葉を頂き、二松学舎大学の魅力を伝えることができたのだと嬉しく思いました。お力添えいただいた本学父母会や松苓会、教職員の皆様を始め、学内団体の皆様にごより御礼申し上げます。誠に有難うございました。

実行委員におきましては、本年で私たち三年次生は引退を迎えます。創縁祭の名には、『素敵な「縁」が「創」られる学園祭になるように』という想いが込められているのですが、実行委員として過ごした三年間はかけがえのない出会いがたくさんありました。携わっていただいた皆様にも素敵なご縁をもたらすことができているかなと思います。

平成が終わる新たな始まりが訪れますが、変わらず、二松学舎大学の魅力を伝え、素敵な縁を創ることが出来る学園祭になるよう実行委員一同努めてまいります。何卒宜しくお願い申し上げます。





**●就職対策、多数準備しています！
三年次生の就職活動が本格化します！**

日本経済団体連合会（経団連）が定める『採用選考に関する指針』で、企業の広報活動開始は、卒業年度に入る直前の三月一日から、選考活動は卒業年度の六月一日からとなっています。

しかし、経団連所属企業以外は指針を順守する義務はなく、中堅・中小企業においては大企業と同時期に選考を行なっている満足に採用が出来ないため、大企業より先行して採用活動を行ないます。三月の企業広報開始以降は、会社説明会と選考を並行して始める企業が多数あります。学生は三月になると、企業研究、応募書類作成提出、筆記試験受験、面接等選考参加と、他に何もできないくらい忙しくなります。

つまり、学生は二月末までに、準備を完了させる必要があるのです。キャリアセンターでは三月から本格化する就職活動に対策すべく、講座や研究会、セミナーやイベントなど多数開催します。三月にはきちんと準備が整うように、スケジュールを組んでいます。

- 地方就職UIJターンセミナー
- SPI対策講座 初級編
- SPI対策講座 特訓編
- SPI対策講座 直前編
- エントリーシート突破法講座
- グループ・ディスカッション講座
- グループ・ディスカッション・アドバンス講座
- 論文実践講座
- 就職基礎理解講座
- 履歴書書き方講座
- 面接対基礎講座
- 就活メイク講座
- 就活マナー講座
- 自己確認講座
- 自己分析講座
- 自分軸発見講座
- 女子力アップ講座
- 男子力アップ講座
- 時事質問対策講座
- 出陣式
- 業界研究会
- エントリーシート実践講座
- 企業採用担当者による面接練習
- 他大学学生との合同面接会
- 保安公務員ガイダンス
- 求人票活用&労働法講座
- 就職力アップ講座
- 創縁会（学内合同企業説明会）

**アー
リタ
リ
キャン
よ
キセ
だ** **53**

二松学舎大学の就職支援は他大学と比べても充実しております。これらの支援をしっかり活用して、就職活動に万全の準備で臨んでいただければと存じます。

なお右記支援講座のうち、SPI対策講座など複数の講座費用を父母会から助成をいただき実施しています。また、学生の相談についてもキ



キャリア形成支援ワークショップ

キャリア・カウンセラーの雇用について父母会より助成をいただいております。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

三年次以外の支援も充実しています！

四年次生の未内定者には内定獲得イベント、一、二年生向けには将来

に向けてのキャリア形成を促すワークショップなど、年次に合わせた支援を行なっています。

また、学年問わず個別の相談にも応じております。専門職のカウンセラーがアドバイスします。

講座やセミナー、イベントや個別相談など充実させておりますが、主役は学生です。キャリアセンターは裏方でしかありません。主役が行動しないと活動しないと、何も始まらないのです。

キャリアセンターの支援を活用し、各自の将来へ繋げていただきたいと思います。そのためにキャリアセンターは精一杯の支援・サポートをさせていただきます。



東洋学園大学との合同グループディスカッション実践

島田ゼミナール

日本語は非常に面白いです。といっても様々な面白さがあります。外国語と比べて、日本語独特の文法をあぶり出したり、類義語どうしを比べて微妙な違いを見出したりするのも無論面白いですが、日本語がどのような段階を経て今日のようになったのかを調査することも面白いです。

私たちがゼミで扱っているのは、こういった日本語の歴史に目を向ける、日本語史についての研究です。

この日本語史研究は、例えば、古典文学まで遡り、とある語の使用例をかき集め、どのようその語の意味が移ったのかを考えたり、複数の語に焦点を当て、その変遷を探り全体的な傾向を整理したりする研究です。これに向き合うことで、よりロジカルに日本語全体の法則性を見渡すことができ、日本語に対する認識をより深めることができます。そして、日常の日本語のちよつとした疑問などが解消されることもしばしばあります。また、日常の生活においても、他に気になる

点・不思議な点は眠っていないかは目を光らせる癖がついてしまい、毎日の楽しみが増えることになります。このように、日本語の歴史・変遷について研究をし、また、日常の気になる日本語にアンテナを立て謎を探して、日本語を楽しんでいるのが私たちのゼミです。

こうしてゼミ生が皆日本語学を楽しむ人であるからか、ゼミは毎度本気の空気をもって行われます。ゼミでの研究には様々な種類の大変さが伴い、基本的には島田ゼミの研究態度には妥協は許されません。だからこ



そ日本語に本気で向き合えるゼミと なっています。
国文学科三年 阿部 琢人

加藤ゼミナール

加藤ゼミは、国際経営学科の新設に先立ち2017年度に開講された、経営学を学ぶゼミです。ゼミの活動としては、三年次は経営に関するディスカッションや、経営の理論を活用した企業分析・業界研究などを行います。加藤ゼミではゼミ生が主体となつて、プレゼンテーションやグループディスカッションを行う活動が中心であるため、プレゼン能力やコミュニケーション能力、議論を組み立てる力など多様な力を養うことができます。

四年次は卒業論文の執筆を中心に行つており、私は以前から興味のあるテーマについて、実際にインタビューやアンケートを行い深掘りしていくことで、新鮮な発見や新しい視点を得ることができました。

加藤先生は経営学のみならず、最新の多様な知識を持つており、社会人になつてから役立つ

つ幅広い教養を身に着けることができました。また、私達ゼミ生と年齢が近いこともあり、いつどのようなときにでも相談のつてもらえらることも心強い存在でもあります。就職活動の際にも、様々な点においてサポートをしてもらいました。

正直なところ、ゼミに入った当初は、様々な面について指摘・指導をされ、とても厳しい先生だと感じていました。しかし、実際に働くことが身近になつていくにつれて、その厳しさが将来の私達を思つての優しさであると実感するよ



うになりました。卒業後はゼミ活動で養った力を社会人として生かしていきたいです。
国際政治経済学科四年 成瀬 大希

ゼミ 探訪



国際交流年未懇親会



十二月一日(土)、中国飯店・市ヶ谷店を会場として、外国人留学生、教職員、父母会役員、本学学生、など合計八十名が集いました。

開会に際し、高野副学長から国際交流活動への父母会の支援に対して感謝の言葉が述べられました。続いて、宮脇父母会長の乾杯の発声を契機に和やかな雰囲気とともに懇親会が始まりました。

昨年とは趣向を変え、中華料理店で昼食会を行う形式をとりました。着席でのコース料理ということもあり、円卓を囲む参加者同士がじっくりと会話をする機会が増えたことで、どの円卓もおおいに会話が弾んでいました。また、中国人留学生にとっては、日本の高級中華料理の数々に舌鼓を打ちながら、少し日本人にあわせた味付けにも異文化の発見があり、会話が盛り上がる良い機会となっていました。

親睦と交流を目的とした余興も実施され、全員が積極的に参加することとなり、終始、盛況で和やかな懇親会となりました。参加者同士での記念撮影や連絡先を交換する様子なども見受けられ、有意義な交流の機会となりました。

最後に、塩田国際交流センター長から閉会の挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。



留学生との国際交流の会



国際交流センター主催の総合的な国際交流行事である「国際交流の会」を創縁祭当日十一月四日(土)に九段校舎一号館十一階にて開催しました。新たな試みとして、「外国人留学生および留学経験のある日本人学生による発表会」と「世界のお菓子の食べ比べができる懇親会」を実施し、七十名を超える多くの来場者でにぎわいました。

発表会では、英国(ケンブリッジ大学)、アイルランド(ダブリンシティ大学)に留学した日本人学生と、中国(浙江工商大学、鄭州大学等)および韓国の外国人留学生が、それぞれ異文化体験や国際交流にまつわる同じテーマに沿って、自身の体験や意見を発表しました。両学生のユニークかつグローバルな視点での発表に、来場者が強くうなずく様子や発表直後に会場から発表者に質問が出るなど、会場が一体となる異文化交流となりました。終了後、参加者との交流会を兼ねた懇親会では、世界各国のお菓子や軽食を堪能しながら、参加者同士がなごやかに談笑する様子が見受けられました。本学公式キャラクターのねこ松もサプライズで登場するなど、終始、笑顔であふれるあたたかい雰囲気行事となりました。



交換留学生便り

平成二十九年度派遣留学生として、韓国の成均館大学校に派遣された高橋怜那さんに留学生活の思い出、また平成三十年度交換留学生の陳禹慈さんから日本での大学生活について綴っていただきました。



たかはし れいな
高橋 怜那

文学部 中国文学科
韓国語専攻 4年
留学先：成均館大学校（韓国）

▼私の韓国留学

私は、二〇一七年二月から二〇一七年十二月まで韓国の成均館大学に留学してきました。私は、高校生の頃から韓国語を勉強していて、韓国への留学は韓国語を勉強する上での大きな目標でした。実際に帰って来てからは、やはり行って良かったなと思いました。

語学堂（大学付属の語学学校）に通ってみると、他の国の学生達との交流がとても多かったです。いわばクラスメイトなので、一緒にご飯を食べたり、登下校を一緒にしたりしました。授業でも、協力をして活動をしました。アンケート調査を二人一組で行うなどクラス内の交流も盛んでした。沢山の国の学生が集まるので、文化も様々です。なので、日本はこんな文化がある、ドイツはこんな文化がある……などをお互い韓国語で話していることが私はとても

嬉しかったです。国ごとに学生の雰囲気も違って、いろんな学生と出会えて楽しかったです。韓国語の勉強もしつつ他の国の事も知ることができ、機会はそのような経験だと思えます。

後期からは、韓国人の学生と一緒に一般の授業を受けました。最初は聞き取れるかとても不安でした。韓国の歴史の授業では、内容量が多くて、名前なのか地名なのか最初はよく分かりませんでした。それを、担当の教授に話したところ、段々慣れていくから心配ないと言われました。その教授の言葉の通り、段々と慣れていきました。日本に関心が高い先生でしたので、わかりやすく日本の歴史事例も交えて講義を行っていただきました。

今回の留学を通して、韓国語はもちろん、一般の授業を受けたり、韓国人の友人と過ごしたりして、文化的な知識も身につけることができました。韓国だけでなく、外国に関心を持つことはとても大事なことでと思います。留学というのは、留学先の人だけでなく、同じ留学生として来ている他の国の留学生と出会ってグローバルな交流が出来ることも良い点だと思います。私は留学して本当に良かったです。



ちん うじ
陳 禹慈
台湾 中国文化大学

▼台湾に貢献できる人になる

初めての日本旅行はワクワク旅に出ることではなく、頭を捻って満喫した研修でした。二〇一八年六月、日本航空が行なったJALスカラシッププログラムという研修プログラムに、私は台湾の代表スカラーに選ばれて、初めて日本へ渡航することになりました。一ヶ月のプログラム

一生に一度のチャンスを経験できたことが、何よりの収穫でした。二回目は、二松学舎大学での一年間の交換留学です。今はちょうど二ヶ月目で、留学生活がまだ始まったばかりですが、日本に着いてから、自分の目標をちゃんと設定して、実践するため一秒も無駄にしないように過ごしています。これからも、一生懸命勉強して、日本の各地に旅行して、視野を大きく広げて、思考の制限から抜け出して、最後の大学生活の間でしかできないことをやってみたいので、残りの留学期間も充実させて全力で頑張りたいと思います。

初めての日本旅行はワクワク旅に出ることではなく、頭を捻って満喫した研修でした。二〇一八年六月、日本航空が行なったJALスカラシッププログラムという研修プログラムに、私は台湾の代表スカラーに選ばれて、初めて日本へ渡航することになりました。一ヶ月のプログラムの期間中、海外スカラーと日本人学生が寝食を共にして、国連が持続可能な世界実現のために制定された開発目標「SDGs」をテーマに、福岡、石川、東京の三箇所の様々などところに見学に行ったり、各地に行ったシンポジウムのため白熱したディスカッションをしたりなど、濃い時間を過ごしました。一ヶ月間の「SDGs」についての研修は、素敵な人たちと出会えて、色々な国の友たちができて、お互いの国の文化を交流して、

将来は、社会に、台湾に、できれば世界に、貢献できる人になりたいです。今は何もできない自分を、留学を通して「社会から必要とされる人」になりたいです。時には勉強で疲れたり、習得できない自分に失望した時もありましたが、「苦は楽の種」の通りに、留学生生活を全力で頑張って、人生を楽しみたいと思います。

卒業パーティーの開催について

父母会では、卒業生の皆さんのご卒業を祝し、また、在学中のお世話になった教職員の皆様への感謝の気持ちを込めて、卒業パーティーを開催しています。卒業生の皆さんは是非ご出席願います。卒業パーティーの内容は次のとおりです。

【日時】

二〇一九年三月十四日(木)
午後三時三十分～五時三十分
(受付 午後三時～)

【会場】

ホテルグランドパレス
二階「ダイヤモンドルーム」
〒一〇二一〇〇七二
東京都千代田区飯田橋二一

【次第】

- 一. 開会
 - 二. 挨拶
 - 三. 乾杯
 - 四. 歓談・ゼミ写真撮影
 - 五. 閉会
- 歓談の時間を利用してゼミ毎の集合写真撮影時間を設けています。時間に制約がありますので、あらかじめ撮影順番を決めておられます。ご協力ください。
- 卒業生に皆さんには、「リボン」を必ず着用していただきます。「リボン」は卒業式当日に配布します。

本学九段キャンパスより徒歩十二分

■公開科目

学部・大学院で開講している授業科目のうち、原則として演習科目を除く授業科目を公開いたします。

■募集要項

二〇一九年度の募集についてのお問い合わせは、二月になりましてからお願ひします。

■科目等履修料

一科目 通年科目 三万円
半期科目 一万五千元

■問合せ先

二松学舎大学教務課
〇三(三二六) 七四〇六

二松学舎大学には、科目等履修生制度があり、大学の授業を広く一般の皆様公開しています。科目等履修生制度とは、大学で開講している授業科目(一〜数科目)を学生と一緒を受講し単位も取得できる制度です。本学学生のご父母の皆様へ、生涯教育の一環として一人でも多く大学の授業を受けて頂きたいとの趣旨から、登録料の免除、科目等履修料の減額措置を講じております。この機会に、是非お子さんと一緒に大学の授業を受けられることをお勧め致します。

内容は、次のとおりです。

卒業アルバム

個人写真撮影依頼

卒業アルバムは父母会より卒業生に贈呈します。卒業アルバム用の個人写真を大学で撮影出来なかった方は、左記の要領で学生支援課(九段キャンパス 一号館三階)へ、ご提出いただきますようお願い致します。

再度、ご家庭で学生本人にご確認下さい。

●写真サイズ 縦4cm×横4cm

(証明写真でも構いません)

●提出締切日

平成三十一年一月三十日(水)

必着

なお、ご提出戴けない場合は、学生氏名のみ掲載となります。ことをご了承ください。

※郵送の場合は、必ず学生番号と学生氏名を写真裏面に記載入下さい。

※詳しくは学生支援課(九段キャンパス 一号館三階)までお問い合わせ下さい。

〇三(三二六) 七四二七

編集後記

新年明けましておめでとうございませう。

平成の時代も残すところわずかなり、新たな時代が幕を開ける節目の年を迎えました。

昨年は国際政治経済学部「国際経営学科」が新設されました。グローバル社会に沿った学びの分野が増え、新時代を担う学生さん達の将来がさらに広がりました。

さて、十一月の三日と四日に「創縁祭」が開催されました。学生さん達の力と心がこもった素晴らしい学園祭でした。

父母会では、恒例となりました「無料休憩所(喫茶室)」を開催し、前年同様、多くの方にお越しいただきました。

一時は席が足りなくなる事もありがた迷惑をお掛けしてしまいました。

二日目には、より多くの方にくつろいでいただけるよう席を増やし、景色を楽しめるカウンター席も設けてみました。

お陰様で、今回も好評のうちに無事終える事ができました。

御尽力いただきました大学関係の皆様には心より感謝申し上げます。

本年も、父母会活動へのご理解ご支援を宜しくお願い申し上げます。